

色のついた五つの島の謎

丸谷憲二

1 はじめに

岡山県牛窓沖の5つの島は黄島、青島、黒島、緑島（前島）と全て色で島名がついています。全国的にも珍しい島の命名です。色のついた五つの島の命名の由来を考察しましょう。



2 色のついた五つの島 地名の由来

塵輪鬼伝説に色の意味が記録されています。要点を確認しましょう。

第一の妻伊采女は青帝青龍王を生んだ。青龍王に春の72日を支配せしめ、青龍王は金貴女を妻として10人の王子を生み出した。青島です。

第二の妻陽専女は赤帝赤龍王を生んだ。赤龍王に夏の72日を支配せしめ、赤龍王は昇炎女を妻として12人の王子を生み出した。

第三の妻福采女は白帝白龍王を生んだ。白龍王に秋の72日を支配せしめ、白龍王は色姓女を妻として12人の王子を生み出した。

第四の妻葵采女は黒帝黒龍王を生んだ。黒龍王に冬の72日を支配せしめ、黒龍王は上吉女を妻として9人の王子を生み出した。黒島です。

第五の妻金吉女は黄帝黄龍王を生んだ。黄龍王に四季の土用の72日を支配せしめ、黄龍王は堅牢大神を妻として48人の王子を生み出した。黄島です。

3 塵輪鬼伝説

牛窓の地名は神功皇后伝承と塵輪鬼伝説（ちんりんぎ）に由来しています。皇后が新羅出兵に行く途中、この地にさしかかった。すると雷鳴とともに黒雲に乗って塵輪鬼（じんりんぎ）が現れ船に襲いかかった。怪物は頭が八つある大牛で、弓で射落とすと首と胴の二つに分かれて海に落ち、胴が前島、首が黄島になった。皇后が新羅から凱旋の帰途、牛窓沖で塵輪鬼の霊魂が牛鬼になって海中から現れたが、住吉神社が牛鬼の角をつかんで投げ倒した。この場所を牛転（うしまろび）といい、なまって牛窓になったという。（市川俊介・岡山市立オリエント美術館長）平成元年3月24日付・山陽新聞夕刊より抜粋

塵輪鬼伝説の初見は江戸時代初期成立の「本朝神社考」です。牛窓の項の「備前国風土記逸文に続いて塵輪鬼伝説」が記録されています。牛窓の塵輪鬼伝説の成立は、他の八幡宮縁起と同様に14世紀と推定されます。しかし、その内容は他所の塵輪鬼伝説と基本的な違いがあります。それは、新羅（古代朝鮮）を敵国視していないことです。

林羅山が備前国風土記逸文と牛窓の塵輪鬼伝説を結合して牛窓の項に記述したものです。

「其ノ牛ハ蓋（けだ）シ塵輪鬼（ちんりんき）ノ之（これ）化スル所也。塵輪八ノ頭有リ。嘗（かつ）テ黒雲ニ駕（のり）来テ仲哀帝ヲ侵（か）ス。帝（みかど）之（これ）ヲ射ル。身首ニ（ふたつ）ト為リ落死ス。塵輪モ亦（また）帝ヲ射ル。帝遂（つい）ニ崩ス。」

4 塵輪鬼伝説と盤牛大王説話

塵輪鬼伝説はホキ内伝巻二（三国相伝陰陽カン轄ホキ内伝金烏玉兔集）の盤牛（ばんご）大王説話をベースにして創作されました。ホキ内伝の注釈書である「ホキ抄」によれば、大唐の伯道上人が文殊菩薩から授けられ遣唐使・吉備真備が日本に持ち帰り安倍晴明に伝えました。陰陽道の聖典とされるホキ内伝の構成は、序では本書の成立の由来、一卷では牛頭天王の縁起と諸方位神の吉凶、その概要は以下の通りです。

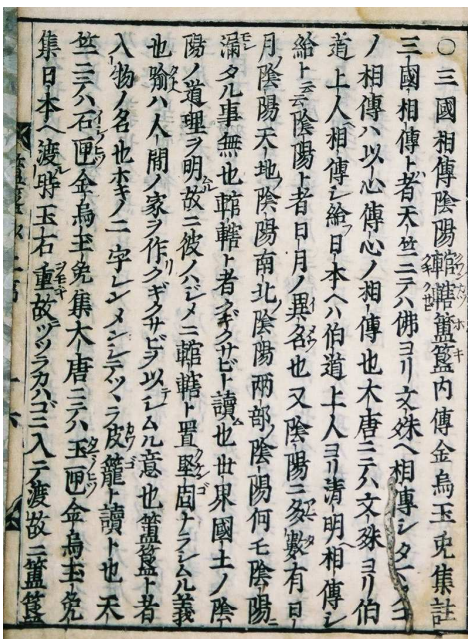
昔、北天竺の王舎城に商貴帝という大王がいました。大王は頭に黄牛の面を戴きするどい両角を有した夜叉のような形相で、牛頭天王と号していました。この牛頭天王が南海の竜王の娘を後に迎えようと旅行中、南天竺の夜叉国の鬼王・巨旦大王（巨旦将来）に一夜の宿を求めましたが断られてしまい、大王に仕える賤女の薦めで巨旦の兄の蘇民将来の家に行きました。

蘇民将来は弟と違って貧乏でしたが、牛頭天王を精一杯もてなしました。その後、牛頭天王は南海の竜宮城に到着して結婚し、后との間に八王子が生まれました。やがて、牛頭天王は后と八王子を連れて王舎城に帰る事になりました。その帰途、以前に宿を断った巨旦大王の城を攻め、大王とその部下たちを滅ぼしました。牛頭天王は、巨旦大王の屍を切断して五節に配当して調伏の儀式を行いました。そして蘇民将来の家に行くと、夜叉国を与えて次のように誓願しました。今後、私は行疫神（病気を

流行させる神）となり、八王子を連れてこの国に乱入するだろう。しかし、蘇民将来の子孫だけは禍を免れることができるように秘法を伝授しよう。病気を避けたいと欲するなら、五節の祭礼を必ず行うようにするべきである。五節の祭礼の祭礼では正月一日の赤白の鏡餅は巨旦の骨肉、三月三日の蓬萊の草餅は巨旦の皮膚、五月五日の菖蒲は巨旦鬚髪、七月七日の小麦の索麵は巨旦の継（すじ）、九月九日の黄菊の酒水は巨旦の血、蹴鞠は頭、的は眼、門松は墓である。全て巨旦大王を調伏するための儀式である。

安倍晴明占術大全

二巻・三巻では盤牛大王縁起及びその子である各龍王などの解説、方位・方角の吉凶や納音、空亡などの陰陽道占術の諸理論、四巻では風水、建築の吉凶など、五巻では宿曜占星術が語られています。



原初の世界に盤牛大王が出現した。その身の丈の大いなることは、十六万八千由膳那であった。盤牛大王は、その円い頭を天となし、方形の足を地とした。またそそり立つ胸を猛火とし、蕩々たる腹を四海となした。この世界の中で盤牛大王の体から生じたものでないものは、何一つとしてなかった。盤牛大王の本体は龍であり、盤牛大王は、その龍形を廣大無辺の地に潜ませている。

5 まとめ

岡山県牛窓沖の5つの島は黄島、青島、黒島、緑島（前島）と全て色で島名がついています。これは、塵輪鬼伝説による命名です。前島、鼠島（ねずみ）を赤島、白島とは名付けておりません。塵輪鬼伝説の根底に、青・赤・白・黒・黄の5種の色彩やバランス感覚を重視する陰陽五行思想があります。

6 参考文献

安倍晴明占術大全『ホキ内伝金烏玉兔集』現代語訳総解説 藤巻 一保 2000年 学習研究社